



■エントランスを見る。海洋深層水を採取する太平洋が見渡せる。

シュウ ウェムラ室戸工場ミュージアム

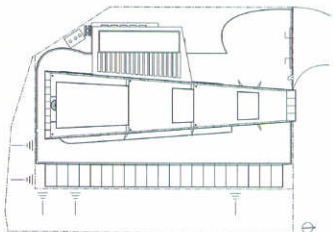
高知県室戸市

設計 アンリ・ゲイダン+金子文子/c.r.c.

施工 清水建設・森組共同企業体

SHU UEMURA, MUROTO FACTORY MUSEUM

architects: CIEL, ROUGE CREATION, HENRI GUEYDAN + FUMIKO KANEKO



■ミーティングスペースとシーズルーギャラリー。右側の黄色色されたゾーンに事務室が配置され、床面のガラス越しに展示物が見学できる。照明器具、家具もc.r.c.のデザイン。下：2階のミーティングスペース、太平洋を一望する。



室戸岬の先端、海からの風雨に晒され堅牢な枝々を道わせた緑の小山に抱かれるように、南北に長い敷地がある。10数年前から高知県が研究を重ねてきた海洋深層水をつかった化粧品を製造する。世界初の試みがなされる工場である。

海岸線を走る国道からの風景の中に、圓期的なコンセプトである「海の恩恵」をもたらす建築を置く。建築のイメージは、幾重にも重なりながら打ち寄せる波頭の白い連なりであり、山と太陽に囲まれた四国の風土と自然のダイナミズムにも重なっていく。背景の緑に、森に、太陽に、空に、解き放たれて形象化したように、景観の中で建築にダイナミズムが要求された。

自然であることで、より将来性がある素材の海洋深層水に私たちはヒントを得た。伝説の美の女神アフロディテを誕生させた海の泡、フランス語で「海の星」と呼ばれるヒトデ、さまざまな種類の貝や魚などの海洋生物などが、青一色の海の世界で不思議な形態と色彩を放つ。それが白一色のこの建物の中に2色の色彩を置いた所以である。

高さ10mの透明な吹抜け空間の中、鮮明にその存在を主張する赤紫のヴォリュームは「貝殻」。3階のオレンジ色の小さなヴォリュームは「ウニ」色。そして、重要な構造物であると同時に、ミュージアムの商品ケースの役割も果たす。連続する一定のリズムで光の柱を刻む「ヒレ」もある。

この建築は、「シュウ ウェムラ」のもつ透明感、ピュアさ、アート性というイメージを建築として表出させている。ひとつひとつ丁寧に、分析され研究され商品化されていくそのこだわりの中で、「海洋深層水」と「シュウ ウェムラ」が出会い、「ダイブシーウォーター」が生まれた。それもまた、私たちが建築空間の中に折り込みたいと願った大切な要素だった。

リユミエール（光）、リユミノジテ（明度）、トランスバランス（透明性）。この3つが大切な要素であった。透明感のあるエントランスでは、海、山、緑を背景に商品を陳列する光の階段が主役となっている。その水平性に対して、垂直方向に高さ10mのヒレが光の棚となり、緊張感を生んでいる。

形態としてはシンプルな長方形の空間であるが、すべての要素が柔らかな緊張感を与えている。（アンリ・ゲイダン+金子文子/c.r.c.）